

2026年1月14日 B型肝炎とおたふくかぜについて

今回はB型肝炎とおたふくかぜについてお話をさせていただきます。

☆B型肝炎 子供への感染はB型肝炎ウイルスに感染した母親から産まれる際に起こる母子感染が一般的ですが、出生後でもB型肝炎ウイルスを含んだ血液や体液が傷などから体内に入って感染することがあります。肝臓に感染して肝炎を起こし、肝炎が持続すると慢性肝炎から肝硬変、さらには肝がんへ進展する可能性があります。

日本人の100人に1人がすでに感染しており、日本の保育園児に集団感染が見られたため、2016年10月1日より定期接種になりました。それ以前に産まれた方は接種していない可能性があります。

☆おたふくかぜ おたふくかぜウイルス(ムンプスウイルス)による予防接種によって感染や重症化を防ぐことができる病気です。まれに、無菌性髄膜炎、難聴、脳炎・脳症、精巣炎、卵巣炎などの重い合併症が起こることがあり、毎年1000人の方がおたふくかぜによる難聴にかかっています。

ワクチンは2回接種が必要です。1回の接種だけでは免疫が不十分で、免疫が低下した後に感染して重い合併症を引き起こすリスクがあるため、より確実な免疫をつけるためです。どちらのワクチンも当院で予防接種をしておりますので、WEB診療予約からご予約をお願いします。